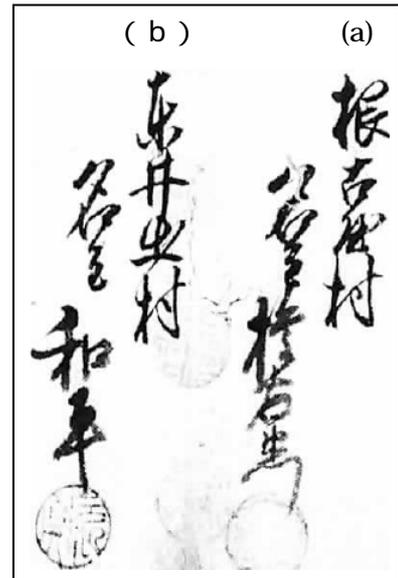


# 地名と名前を読む 1

今回からしばらくは、名前や地名を読む練習をしてみます。第15回に少し出てきましたが、慣れないと難しいので、その後は避けていました。

さて、(a)と(b)は、ある古文書(01018-54-941)の連名の部分です。なお、この古文書は駿河国駿東郡原宿の渡辺家文書ですので、土地勘のある方はわかりやすいかも知れません。(a)から読んでみましょう。**根**は**れ**の部分が「木」



か「**木**」です。隣の**辰**は「辰」「良」という感じの字でし

よう。すると**根**は「振」か「根」と読めます。次の**古**は「古」で、次の**屋**は、第2回で**屋**と出てきた字と同じで「屋」です。**村**は「村」なので、「根古屋村」か「振古屋村」ということになります。

ここで、2つのテクニックがあります。1つはインターネットで「根古屋」と「振古屋」を検索してみることです。当時の村の名前は現在も町名や字として残っている可能性が高いからです。検索の結果、「根古屋」は「静岡市駿河区根古屋」等あちこちに残っていますが、「振古屋」は検索にかかりません。

もう一つのテクニックは、こちらの方が確実なのですが、静岡県内にあった村名の場合、『静岡県史』資料編9 近世一の付録に「天保郷帳」という古文書の翻刻が載っています。ここには、静岡県にあった駿河国、遠江国、伊豆国それぞれの郡ごとに村の名前が列挙されていますので、載っている村の中からそれらしい村名を探していくという方法です。調べてみると、駿東郡に「根古屋村」という村があります。

さて、次の**名**は、虫食い(虫損といいますが)があって読みにくいですが、(b)に**名**と出てくるので、「名」とわかります。**主**も(b)を参考にすれば「主」なので、2文字で「名主」となります。

次の**村**はとりあえず置いておいて、**右**は「右」、**馬**は、パターン化されているので崩しが大きいですが、「衛門」です。これは覚えてしまった方がよい字

です。さて、**村**ですが、偏が「木」か「木」です。隣の**上**の部分に目を付けると「権」という字に見えるでしょうか(これは少し難しいと思います)。したがって名前は「権右衛門」です。「権」という字は、「鴨とり権兵衛」など、江戸時代には良く名前に使われる字です。